

日本福祉のまちづくり学会第 18 回全国大会（柏）報告

■大会概要

日本福祉のまちづくり学会第 18 回全国大会は、千葉県柏市において平成 27 年 8 月 7 日から 9 日まで、メイン会場を「東京大学柏キャンパス」に、市民公開シンポジウムを「柏の葉カンファレンスセンター」において開催された。市民参加も含めて約 360 名の方に大会参加を得て、各プログラムとも盛況のうち無事終了することができた。関係の皆様には心から御礼申し上げる。

■開催概要

- 名称 一般社団法人日本福祉のまちづくり学会 第 18 回全国大会（柏）
大会長：大和裕幸（東京大学理事・副学長）
実行委員長：鎌田実（東京大学教授）
- 大会テーマ 長寿社会のまちづくり：すべての人がいきいきと暮らせるまちづくり
- 開催日時 平成 27 年 8 月 7 日（金）～9 日（日）
- 開催場所 ・メイン会場：東京大学柏キャンパス
・シンポジウム会場：柏の葉カンファレンスセンター
- 主要企画
 - ・研究発表会 8 月 8 日、9 日
 - ・研究討論会 8 月 8 日、9 日
 - ・展示会 8 月 8 日、9 日
 - ・交流会 8 月 8 日
 - ・市民公開シンポジウム 8 月 9 日
 - ・見学会 8 月 7 日
 - ・学会賞授賞式 8 月 8 日
 - ・特別イベント 8 月 8 日
- 主催 一般社団法人日本福祉のまちづくり学会
- 後援 内閣府、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、柏市、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人土木学会、日本生活支援工学会、東京大学大学院新領域創成科学研究科 ※順不同
- 協賛 株式会社オリエンタルコンサルタンツ、株式会社キクテック、株式会社東横イン、ナカ工業株式会社、八千代エンジニアリング株式会社、ほか 1 社
- 広告協賛 株式会社アークポイント、阿部スクリーン印刷株式会社、株式会社オリエンタルコンサルタンツ、柏商工会議所、株式会社キクテック、株式会社国際情報ネット、コマニー株式会社、大和ハウス工業株式会社、TOTO 株式会社、東武バスイースト株式会社、株式会社藤井製作所

- 展示協賛 株式会社キクテック、コマニー株式会社、大和ハウス工業株式会社
- 協力 三井不動産株式会社、首都圏新都市鉄道株式会社、東京大学高齢社会総合研究機構・GLAFS

■参加費

- ・一般会員（事前登録）7000 円、（当日登録）8000 円
- ・学生会員（事前登録）2000 円、（当日登録）3000 円
- ・非会員（一般）10000 円、学生（4000 円）
- ※会員の 7 月 7 日までの事前登録者は早割として 1000 円割引
- ・交流会参加費 5000 円（学生・介助者は 3000 円）

■参加者数

- ・大会登録者 一般会員 218 名
学生会員 15 名
非会員 39 名
学生非会員 15 名
- ・招待者・聴講者 20 名
- ・交流会 約 120 名
- ・公開シンポジウム 約 150 名
- ・見学会 3 つあわせて、延べ 95 名

※実行委員 39 名、学生アルバイト 40 名

■開催プログラム

	日時	プログラム
8月7日（金）	10：00～11：30	見学会A（豊四季台地域の長寿社会まちづくり）
	13：50～15：20	見学会B 1（国立がん研究センター東病院における障害者雇用）
	13：30～15：30	見学会B 2（柏の葉地域における健康未来都市のまちづくり）
	午後全般	サロン：東大高齢社会総合研究機構（IOG）の活動等の説明
8月8日（土）	9：30～11：30	研究発表
	13：00～17：30	研究発表
	11：30～13：30	ポスターセッション
	10：00～12：00	研究討論会 1
	13：00～15：00	研究討論会 2
	15：30～17：30	研究討論会 3
	17：40～18：00	特別イベント「シニアチア」
	18：00～18：15	学会賞授賞式
	18：20～20：00	交流会
8月9日（日）	9：00～11：00	研究発表
	9：30～11：30	研究討論会 4
	13：30～16：00	市民公開シンポジウム



東京大学柏キャンパス環境棟
(メイン会場)



柏の葉カンファレンスセンター
(シンポジウム会場)



受付部



シャトルバス

■研究発表会

日時：平成 27 年 8 月 8 日（土）9:30～17:30、8 月 9 日（日）9:00～11:00

セッション数：口頭発表 18 セッションおよびポスターセッション

研究発表数：口頭発表 110 編、ポスター発表 13 編

概要：一般研究発表は 10 分発表、5 分討論。前年に引き続きコメンテータ論文の場を用意し、それは 10 分発表、15 分討論。ポスターセッションは、1 件ずつ 10 分の発表をしてもらう方式とした。

セッション名は、建築・住環境 1、同 2、同 3、移動・外出 1、同 2、観光地・観光バリアフリー、教育・人材育成、まちづくりとユニバーサルデザイン、防犯・防災・安全、案内・誘導・情報バリアフリー 1、同 2、国際協力・国際化、地域社会・生活支援、交通システム、コメンテータ論文のセッションは、移動・外出、建築・住環境整備、交通システム、地域社会・生活支援であった。

ポスター展示 8月8日 9:30～18:30、9日 9:00～11:00

(ポスターセッションは8日 11:30～13:30)



一般セッション1



一般セッション2



ポスターセッション1



ポスターセッション2

■展示会

日時：平成27年8月8日 9:30～18:20、9日 9:00～11:00

会場：東京大学柏キャンパス環境棟1階ロビー

出展：株式会社キクテック、株式会社コマニー、大和ハウス株式会社

※順不同



展示の様子

■交流会

日時：平成 27 年 8 月 8 日（土）18:20～20:00

会場：東京大学柏キャンパス内カフェテリア憩い

参加者：120 名

内容：大和裕幸大会長挨拶

来賓挨拶：石黒柏市副市長

秋山哲男学会長挨拶

乾杯の音頭：高橋儀平関東甲信越支部長

次回開催地代表挨拶：横山哲氏（ドーコン）

鎌田実実行委員長中締め挨拶



大和大会長の挨拶



石黒副市長の挨拶



高橋支部長の乾杯発声

■特別イベント：シニアチア

当初交流会の余興として検討していたチーム JSCA によるシニアチアのダンスパフォーマンスを、大会プログラムの8日 17:40～18:00 に組み込んだ。最高年齢 74 歳のチーム JSCA20 名によるダンスは、大会テーマの「いきいきと暮らす」ということにマッチし、好評であった。最後の曲は、大会参加者も手を動かすパフォーマンスを一緒に行い、会場一体で盛り上がる楽しい時間を過ごすことができた。



シニアチアの様子

■見学会等

大会初日の 7 日に、3 つの見学会（午後の 2 つは並列）と大学でサロンの場を用意した。

（1）見学会 A

柏市の豊四季台地域には昭和 40 年代に建設された公団（現 UR）の豊四季台団地があり、居住者の高齢化と建物の老朽化が進んでいる。その再開発にあわせて、柏市・UR・東京大学が共同で長寿社会のまちづくりに取り組んできている。古い建物を除去し、高層の新しい建物の建設による空きスペースに、在宅医療等の拠点やサービス付高齢者向け住宅などの建設を行い、医療・ケアのサービスを地域へ展開できるようになったほか、高齢者の生きがい就労の場の開拓などもあわせ、柏プロジェクト・柏モデルと称して有名になっている。本見学会では、市・UR・東大の担当者からプロジェクトの詳細説明を受けた後、現地の見学を行った。



見学会 A：UR からの説明



見学会 A：サービス付高齢者向け住宅

（2）見学会 B-1

国立がん研究センター東病院では、障害の有無に関わらず、誰もが共同で働ける職場を実現している。現在、身体・知的・精神・発達の 4 障害の方々が、それぞれの職場で活躍しており、平成 23 年度からは知的障害者がジョブコーチの指導のもと、医療関連業務に従事している。これまで、障害者雇用は清掃や繰り返し作業等の業務分野で取り組み事例が多かったが、本事例では医療関連業務という看護師の業務の一部を代行する（専門職でなくてもできるもの）という形での障害者雇用を実現しており、病院で働く障害者の新しい職域として、新たな雇用の可能性に、各方面より関心を集めている。本見学会では、障害者雇用の現場視察の後、指導にあたるジョブコーチの説明を受け、質疑応答を行った。

<http://www.ncc.go.jp/jp/ncce/division/shogaishakoyo.html>

<http://www.ncc.go.jp/jp/ncce/division/pdf/shogaishakoyo.pdf>

（３）見学会 B-2

柏の葉キャンパス駅周辺は、つくばエクスプレスの開業にあわせて新しく街が出来た所で、昨年のホテル等の施設開業により、スマートシティとしての構成が整った。「世界の未来像」をつくる街をキーワードに、諸々の設備と事業がなされているが、UDCK というアーバンデザインセンターが中心になり、公民学の連携で新たな街づくりを実践している。また、東京大学 HIP（ヘルスケア・イノベーション・プロジェクト）が中心になって、健康未来都市を目指した活動も行っている。本見学会では、UDCK に集合して取り組み内容等の説明を受け、その後施設等の見学を行った。



UDCKの外観



まちの健康研究所「あした」の見学

（４）東大 IOG サロン

東京大学高齢社会総合研究機構（通称 IOG）は 2009 年に高齢社会の課題解決のために総長室に設置された組織で、柏や福井、それから被災地で長寿社会のまちづくりの実践を行ってきた。この IOG の活動等をパネルで説明し、施設見学等を行った。



IOG サロンでの説明の様子

■研究討論会

学会本部企画による4つの研究討論会を、8日に3件、9日午前に1件実施した。(場所はいずれも東京大学柏キャンパス環境棟FSホール)

(1) 研究討論会1「福祉のまちづくりにおける障害者差別解消法の役割と合理的配慮」

日時：平成27年8月8日 9:30～11:30

2015年2月障害者差別解消法の基本方針が決定した。このことを踏まえて、2016年4月の法施行を目途に今後さまざまな取り組みが展開される。国や地方公共団体においても活発な議論が展開されなければならない。そこで本討論会では現状における議論の進捗状況を踏まえて、さまざまな立場から、実際の生活に即した実効方策についての討論を行った。

コーディネーター：高橋儀平（東洋大学）、男鹿芳則（世田谷区）

10:00～10:05 趣旨説明（男鹿芳則 世田谷区）

10:05～10:20 「交通領域の差別事由と合理的配慮」

松原淳（交通エコロジー・モビリティ財団）

10:20～10:35 「視覚障害者に対する差別の実態」

高梨健二（千葉県視覚障害者協会副理事長）

10:35～10:50 「聴覚障害者に対する差別の実態」

植野圭哉（千葉県聴覚障害者協会理事長）

11:05～11:20 「肢体不自由者に対する差別の実態」

今西正義（DPI 日本会議）

11:20～11:35 「国内の障害者人権条例の制定状況」

男鹿芳則（世田谷区）

11:35～12:00 討論（高橋儀平 東洋大学）



研究討論会1の様子

（２）研究討論会２「当事者の視点を取り入れた施設や製品の開発」

日時：平成 27 年 8 月 8 日 13:00～15:00

JIS 規格があれば誰にでも使いやすい製品が設計できるわけではないのと同じように、バリアフリーのガイドラインや調査報告も、それだけで誰にでも使いやすい施設や製品が設計できるわけではない。個々の施設や製品の特性に応じて、当事者の多様なニーズをどのように反映させるべきかを議論する。

コーディネーター：伊藤啓（東京大学）、中野泰志（慶應大学）

13：00 ～ 13：05 はじめに（趣旨説明） 伊藤啓（東京大学）

13：05 ～ 13：27 製品・システム・サービスにおける使いやすさの実現

早川誠二（人間中心設計よろず相／

NPO 法人人間中心設計推進機構 前理事）

13：27 ～ 13：49 視覚障害者に分かりやすい製品・施設への協力

大橋由昌（日本盲人会連合・総合企画審議会委員）

13：49 ～ 14：11 色とデザインの分かりやすさへの協力

伊賀公一（NPO カラーユニバーサルデザイン機構）

14：11 ～ 14：33 肢体不自由者の使いやすさへの協力

矢ヶ部孝志（UD くまもと）

14：33 ～ 14：55 障害者の立場から見た当事者の設計参加

星加良司（東京大学）

14：55 ～ 15：00 おわりに 中野泰志（慶應大学）

（３）研究討論会３「オリンピック・パラリンピックの競技場・交通・情報提供の課題」

日時：平成 27 年 8 月 8 日 15:30～17:30

2020 年の東京でのオリンピック・パラリンピックの開催に際し、競技場、交通、情報提供の各領域において、わが国の福祉のまちづくりのこれまでの到達とロンドンなど既開催地の実績を踏まえ、現状の課題及び今後の方向性について話し合った。

コーディネーター：秋山哲男（中央大学）

15:30 ～15:35 開催趣旨 澤田大輔（交通エコモ財団）

15:35 ～15:45 日本福祉のまちづくり学会のオリンピック・パラリンピックに向けた動き

秋山哲男（中央大学研究開発機構）

15:45 ～16:30 基調報告

（１）ロンドンオリンピック・パラリンピックにおける公共交通機関の対応からの教訓

竹島恵子（交通エコモ財団）

（２）ロンドンの経験から見た 2020 に向けた情報技術と情報提供のあり方

金丸直義（NTT サービスエボリューション研究所）

(3) 競技場及び会場アクセスの調査と今後の課題

川内美彦（東洋大学）

16:35 ～17:25 パネルディスカッション

パネリスト：高橋儀平（東洋大学）、

山寄涼子（DPI 日本会議・CIL 小平）

及び上記講演者

17:25 ～ 17:30 まとめ：秋山哲男



研究討論会 3 の様子

(4) 研究討論会 4 「これからの情報技術を考える ― 情報障害者への対策と今後の情報技術のあり方について ―」

日時：平成 27 年 8 月 9 日 9:00～11:00

近年のスマートフォンやタブレット PC の普及により IT 技術による情報障害者への支援状況が一変してきた。このような急速な情報技術の開発は、シーズ先行型で進められていることが多く、ユーザー側にその使い方・使いこなし方が任されている実態もある。また、そこで発信される情報が利用者ニーズに合致していないケースも見受けられる。加えて、実際の障害者の生活の中で、すでに膨大な「情報」が身体化され利用されていることは、これまで本委員会の公開研究会等で確認されてきた。

このように多くの情報があふれる中でこれらの情報を使いこなせる者とそうでない者との格差やツール依存の弊害も言われてきている。

そこで本研究討論会では、これらの課題と原因を洗い出し、その解決方法と今後の都市・建築空間の中での情報技術のあり方について話し合った。

コーディネーター：原利明（鹿島建設）

9:30 ～ 9:35 開催趣旨 松田 雄二（東京大学）

9:35 ～ 9:55 話題提供 1：障害者と情報化

関根 千佳（同志社大学）

9:55 ～ 10:15 話題提供 2：IT 開発者は何を考えているのか？

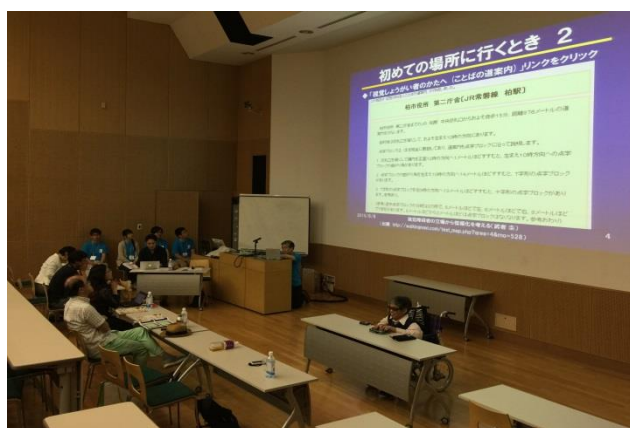
山田 肇（東洋大学）

10:15 ～ 10:35 話題提供 3：視覚障害者の立場から情報化を考える

武者 圭（サウンドスケープデザイナー）

10:35 パネルディスカッション（司会：松田）

11:25 まとめ（原）



研究討論会 4 の様子



■市民公開シンポジウム

日時：平成 27 年 8 月 9 日（日）13:30～16:00

場所：柏の葉カンファレンスセンター ホール 5&6

入場者数：150 名

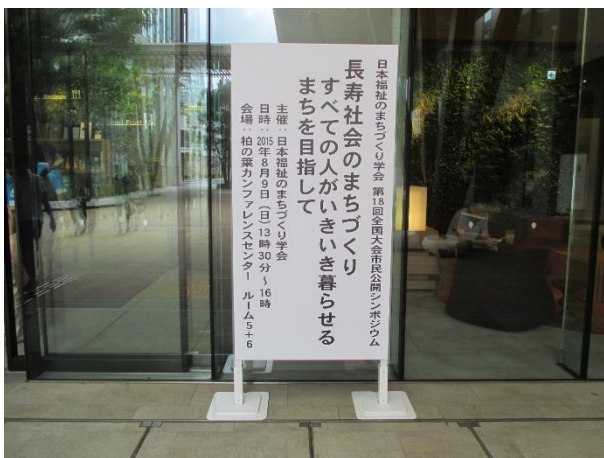
テーマ：長寿社会のまちづくり～すべての人がいきいきと暮らせるまちづくり～

（1）概要

柏市では環境未来都市の指定を受けて様々な取り組みを行っており、豊四季台で始めた長寿社会のまちづくりや柏の葉で始めた健康未来都市のまちづくりを全市への展開を計画している。そこでこの全国大会の最後のイベントとして、市民公開シンポジウム「長寿社会のまちづくり：すべての人がいきいきと暮らせるまちを目指して」を実施した。秋山市長からの基調講演の後、様々な識者が登壇するパネル討論を行い、柏での取り組みを学会員等に伝え、また学会の活動等を柏市民に知ってもらう機会となった。

（2）プログラム

- ・開会の挨拶 日本福祉のまちづくり学会 柏大会実行委員長 鎌田実
- ・基調講演 柏市の長寿社会のまちづくり 柏市長 秋山浩保
- ・パネル討論 司会：大方潤一郎（東京大学高齢社会総合研究機構長）
秋山浩保（柏市長）
辻哲男（東京大学高齢社会総合研究機構特任教授）
出口敦（UDCK センター長）
松井宏昭（社会福祉法人 理事長）
長澤京子（国立がん研究センター ）
秋山哲男（日本福祉のまちづくり学会長）
大森宣焼（宇都宮大学教授）
- ・閉会の挨拶 日本福祉のまちづくり学会長 秋山哲男



シンポジウムの看板



秋山柏市長の基調講演



パネルディスカッションの様子



シンポジウム講演資料



パネルディスカッションの登壇者

■学会賞授賞式

8日 18:00～18:15 に、学会賞授賞式を行った。論文賞 1 件と市民活動賞 2 件で、時間枠の関係で受賞者による講演等は行えず、市民活動賞 2 件はポスター展示をしてもらった。



学会賞授賞式の様子

■アクセス・情報保障

アクセスについては、メイン会場が駅からバスで 10 分のところにあるため、バスによるアクセス性について十分な配慮を行った。バス便はすべて車いす対応であるが、本数の確保のために、ピーク時間帯にシャトル便（駅前と大学構内を結ぶ）を走らせた。また駅前にスタッフを配置し、案内・誘導を行ったため、スムーズなアクセスが得られた。

情報保障については、研究発表・研究討論会会場においては、事前申し込みの希望者に対して手話通訳と要約筆記（ノートテイク）を用意した。（見学会の一部も） また、市民公開シンポジウム会場においては、手話通訳と文字通訳（PC 要約筆記）を用意した。いずれも、千葉聴覚障害センターの協力により対応した。

保育については、メイン会場において保育室を用意し、事前申し込みの希望者に対し、対応がなされた。

その他、研究発表等に支援が必要なケースについて、事前に要望を出してもらっていたので、スムーズな対応がなされた。

■実行委員会

平成 26 年 6 月に 47 名で結成し、委員会 3 回、幹部会 6 回、メールのやりとり延べ数千回をもって準備にあたった。委員会内を、企画・論文・渉外・アクセス・運営・総務にグループ分けし、さらにイベント毎に担当スタッフを割り当てた。大会前日からは学生アルバイト延べ 80 名を投入し、準備・運営を行った。